

「都構想」否決の翌日、橋下市長辞任要求の陳情書を提出

大阪市廃止、分割Ⅱ特別区設置協定書について賛否を問う、いわゆる「都構想」はみなさんがご存じのように五月十七日に否決されました。さっそく、反対運動をした人たちが翌十八日、大阪市内に「橋下市長の辞職を求める陳情書」を提出しました。

その前に中之島女神像前で小集会がもたれ、多くの記者たちが注目する中それぞれが発言しました。”大阪市がなくなるでーえらいこっちゃんの会”の池田裕子さんや“緑の

大阪”Kさん、有元幹明さんや“WTC住民訴訟の会”の藤永さんなどです。



みなさんの発言に共通していることは、住民投票は大阪市民を分断して

しまったということ、勝ったとはいえ、大阪市民の半分以上が賛成にまわり、現状を変えたいと思ってる人がそれだけいるということ、その人たちの気持ちもくみながら、よりよい大阪市にしていこうということだったと思います。

そのなかで有元さんの発言をご紹介します—

橋下市長は「都構想」を打ち出した時、「統治機構を変える」と言った。

私はそれを聞いて「この市長はだめだ」と思っ

た。統治というのは権力者が支配することです。私たちが言うのは自治です。市民の健全な判断が大阪市を守った。

私も同感です。橋下市長は住民投票結果発表後のあいさつで「権力なんて使い捨てでいい」と言いました。それを聞いて「この人はほんとに権力者になりたい人やねんな」と思いました。

市長は権力者ではなく、市民から選ばれた市民の代表でなければならぬはず。そんな気持ちがない



いからこそ出た本音といえるでしょう。

ともあれ、任期を全うするといふ橋下市長に辞任を要求する陳情書を持って市役所へ。

まず八階へ。市会が開かれておらず議長も決まっていないので、事務局が対応しました。各議員団

も維新を除いて誰も来ていないので、これも各議員団事務局の預かりとなりました。

それぞれ池田さんが、陳情書を読み上げ提出しました。

そして市長に渡そうと五階の政策企画室へ行きましたが、そこで私たちは足止めをくらいました。池田さんの前に男性の職員二人が立ち塞がり、廊下で受け取るというのです。

池田さんが立ち話を強要するなんて失礼だと怒って、会議室を要求。すったもんだの末、通されたのは地階の会議室でした。陳情書を渡すとき、池田

さんは対応したその職員二人にこう言いました。

橋下市長は市の財産を売り飛ばしただけでなく、今回の住民投票で市民の心を真つ二つにした。任期まで全うするというのはおかしい。これ以上市長として何かを発言したり、何かをしてほしくない。市長は「一人で大阪市をみれない」と言ったが、市役所に来る日が何日ありますか!? たくさん裁判を抱えているけど、そんな市長がどこにいますか!?

そして職員に、「あなたたちも今日みたいな対

応はやめてください。市民と心を通わせる市役所になってほしい」と要望しました。

陳情行動が終わって、藤永さんは「大阪市とは二十年以上の付き合いやけど、昔は五階の応接室に通れたのに。橋下市長になって、ずいぶん市民と離れてしまってるな」「シティホールやねんから、市民に開かれた市役所でないとかかんねん」と言っておられました。

そんな市役所になるよう橋下市長には一日も早くやめてもらいたいものです。

アート・アド分会 N